源　流

第２０４号　　教育長　　儘田　文雄

「言葉の力」を中核とした学校づくり⑦

三つのキーワード

◆　現在、学校には多種多様な課題があります。どの課題も、教師一人の力では解決することは困難であり、**学校の組織や人材、地域の教育資源を生かして取り組む**必要があります。

◆　一方、体罰をはじめ子供の人権を侵害する教師の言動等によって子供との関係を築けなかったり、日頃のふれあいが十分でないため、いわゆる心のサインをつかめなかったりすることがあります。保護者等との円滑な関係を築くためにも、教師は「言葉の力」を生かして**信頼関係を深める**ことが重要です。

◆　各教科等の指導においては、引き続き言語活動の充実による学力向上、望ましい人間関係の構築、豊かな心の育成等が求められています。これらの実現には、教師と子供が自らの**「言葉の力」を高め生かす**ことが必要です。

◆　こうしたことを踏まえ、本市では**「言葉の力」を中核とする学校づくりのキーワード**として、**＜生かす＞、＜深める＞、＜高める＞**の三つを設定しています。
＜生かす＞とは、**価値あるものにすること**、
＜深める＞とは、**関係をより確かなものにすること**、
＜高める＞とは、**可能性を広げること**です。

◆　「言葉の力」で、**①「組織」を生かす、②「人材」を生かす、③「地域の教育資源」を生かす、④「子供との信頼関係」を深める、⑤「保護者との信頼関係」を深める、⑥「地域との連携」を深める、⑦「子供の学力」を高める、⑧「人間関係形成能力」を高める、⑨「感性・情緒」を高める、⑩「教師の指導力」を高める**、以上の**＜10の視点＞**を切り口として、各学校の実態に応じた学校づくりが推進されることを期待しています。

※ 次号から**＜10の視点＞**それぞれの「課題」と「解決の方向性」等について述べます。